



言語指導上の問題点

角尾和子

教育内容の具体的諸問題——「言語」の領域について——というのが与えられた課題です。いろいろの角度があるので、私はここで言語の指導にあたって、どのような困難があり、またどのような問題点があるか日頃感じておりますことの一部をのべてみたいと

こう考えるとまつたく考えるための資料のととのわないのになげかざるを得ない。

幼稚園教育要領に

人のことばや話などを聞いてわかるようになる。

○聞く生活は多いが指導の計画はたてられているだろうか
わたしたちの生活の大部分が聞くこと、話すことの生活であり、またその中でも聞くことの生活の方がはるかに多い。このことに気づくと、何の領域の指導をしていても、聞く生活があるのであるのだから、

「話」そのものに難易があり、それによって聞きとり方もきまつてくれるわけである。もちろん幼稚園教育の現場にある人々の自主性を尊重しての目標であるとは思うが、一画、この面の科学的な調査研究の不足も否めないものがある。

また

先生や友だちといっしょに話をきく、

友だちといっしょに話を聞く、

などのように、活動や経験の場面とか機会を用意して、その中で自然に子どもは育っていくと考えのもあまいように思う。指導の機会はたくさんあるが指導の技術がおいつかない。やはり児童たちのわからない。

「聞くことについてどのように育つことが期待されて、どのように指導の計画をたて、そして実践していくたらよいか」

「聞くことについてどのように育つことが期待されて、どのように指導の計画をたて、そして実践していくたらよいか」

「聞くこと」の力の、あるいは働きの、進化の状態を綿密にしらべてみて、それにしたがつて適当な教材を用いて、適当な指導をおこなうべきだと思う。聞く生活は多いけれど、眞の意味で指導の計画は今のところ考え方がない。教えをうけたいと思う。

○聞くとき話すときの態度の指導は身ぶりの指導だろうか

「態度をつくることが大切である」とは聞くこと、話すことの指導にあたつて誰もが考えることである。しかし旧要領にあるような・相手の顔をみながら話すとか

・話をする人の方へ向いて聞くなどのように、きまつた身ぶりを教えこむことでよいのだろうか。

これはやはり

- ・……親しみをもって聞く、
- ・注意して聞く、
- ・……親しみをもって話す、

などのように、聞くときの心構えや、その時の心の持ち方に重点をおいて、枝葉の身ぶりは自然に個々の個性に応じて出てくればよしと考へて指導する必要がある。それでなければ聞く力も話す力も、ほんとうに身についていくとは思えない。しかもどちらに重点をおくかといえばやはり態度をつくることにもっと私たちは力を注ぐべきであろう。聞く、話すことは場面によく結びついている。実際の場面にのぞんで経験させてみないと身につかないもので

ある。技術的なものだけをとり出しても容易に実践されるようにはならない。

実践にあたつては幼児たちの日常生活の中で、あるいは用意された経験の場で幼児たちの構えを、心のもち方を指導し、また一方ではひそかに教師が聞くこと・話すことの能力向上のための鍵をにぎついて指導していく必要があると思う。

このように考えてみると、心構えをつくるには、たんに「注意してききなさい」「親しみをもって聞きなさい」のかけ声だけではどうも不十分である。どのように幼児に働きかけたらよいだろうか、今後研究していくべき問題点である。

○会話の時間特設はどうだろうか

私たちが「よい話を聞いた」と感じ入るときは、じょうずに話したその口の動きや手のあげさげでなく、話の内容について感じたときである。話す内容がなければ、話にならない。その意味では急にしつらえられた時間にタネもなくては話せないのは道理である。また話したいと思っても、そこに自由なふんいきがなければ……こんな話をしてもよいかしら……と迷ってしまう。また話す子どもに発言する勇気が欠けるなら、すぐそばでしりごみする前にささえて勇気を出させる必要もあると思う。そこで話すことの教育についていろいろ考えるとき、根本的な指導計画などの問題もさることながら、自由になんでも話してよい時間、自由な話を聞く時間というの

を毎日一定時、設定してみてはどうだろうか。

こんなことを考えているとき、ハワイで二世や三世の子どもを集め、日本語の指導をしている、日本語学校の先生に会った。そこでは読み、かく教育もするそうであるが、聞く・話すことが基本におかれているようで、はじめは一語文からおぼえて、はなして、なおしてもらつて、という形で指導していたそうである。しかし、いろいろやってみて日本語の全然わからない子どもたちが一番気もちよく教師の指導についてくるのは、自由な会話の時間であるということであった。日本の幼児たちは全然日本語をしらないわけではないから、自由な会話のたのしさをもつと身にいっぱい感じる。そこで聞き手は教師であり、話し手も教師である。心に秘めている指導の鍵を適切に使うならひとりひとりへのきめこまかい指導をおこなうことができる。ときに幼児同志の短かい時間ではあっても会話を発展することもある。教師の助けや指導で子どもたち同志の会話もそこから育つのではないだろうか。

○教材の系統化についてこれからの問題

さきにもべたけれども、幼児の発達の状態を精査に観察したり、またそれにもとづいて教材を云々したりする研究が少ないことにはまことに残念なことである。とくに言語教育の面に限らぬけれども、教材を系統的に配列することができたらどんなに指導が楽であろうか。しかし反面、これとはちがった次元では教材も分類されてい

る。たとえばいわゆるお話も子どもの情操をゆたかにする話とか道徳的な教えを含んだいわゆる生活ばなしというように、親や教師が子どもに培いたいと思う面を強調して分類し系統づけた研究もないわけではない。しかしども私はそれらをみていて、与えられる子どもそのものの、存在が無視されているように思われてしかたがない。教師が情操を豊かにと思って話す話も、子どもの頭に「現実と遠いな」とのこったなら、一片の感傷もわからないだろうし、はじめの目標は達せられないで終る。またそれだけでなく、自家のテレビならチャンネルを切りかえて楽しみ多いものにとりかえられもするが、つまらないなどもしうつってもそこに坐って聞かねばならぬとしたら、子どもはその時間を無為にすごすだけでなく、「話を聞き流す」術をも体得し、必要なことのときもあるいは聞き流すかもしれない。

かれこれ考えると、先生の話す童話を聞く、とあるあの教育内容を生かして指導するには、童話の構造についての研究とともに、幼児の思考や興味との関連をしらべて、童話について、年令別に系列づけるための目安をたてる必要があると思われる。

大正年間に波多野勤子氏が「童話の構造」について論文を発表されており、最近はまた、童話作家の立場で、むかしばなしの構造に考察を加えられた石井桃子氏の研究もあり、一部にその機運があるが、幼児がどううけるかを問題にする場合、この解決の衝にあたるのは私たちではないかと思う。今後の研究の課題としていきたい

ところのひとつである。このことが橋頭堡となつてその他の聞く、

話す指導の鍵がつぎつぎ私たちのものになると期待するのである。

次に同様のことが絵本についてもいえる。この頃絵本が○才向と称して年令別に編集されるのがはやっている。しかしそこにはたしかなうらづけがあるだろうか。どうもこの辺に私なりに疑問をもつてゐる。

その絵本を見て子どもが喜んで、あるいは、この絵本で何を具体的に覚えたなどのようないわゆる意識の表面の問題、目先の効果におわれて本質的なものの追求を怠つてはいないだろうか。もっとつつこんでいうなら、どのページにもついて「おかあ様方へ」という欄とか、附録の母親向けのページにもみられるように、子どもをたねにした母親の本のような気もする。そんな方は言いますがかもしれない。しかし子どもの心の底の感覚、生命の豊かさに、どれだけ働きかけて、どれだけ効果があつたかということはあまり聞かない。この面の研究の成果が絵本づくりに役立つたなら、どんなにすばらしいことだろう。

これらをだんだん考えてみると、幼児にむく絵をかいてくれる人、幼児にむく話をかいてくれる人というように幼児専門職の人がないのも、聞かないのかもしれないが、淋しい気がする。

広い視野に立ちながら幼児を愛し育てる人に情熱をもつ人が、絵本つくりに専念してもらえるということはいつの日いか実現してほしいことである。そのためにも幼児の側に立った教材の系統化を

何からでも手がけなければならないと思う。

○幼児の能力評価のむずかしさ

幼児の能力は何の面についてでも評価し数値にあらわすのに困難がある。個人調査でなければできないわずらわしさ、雲の如くつかりどころなくいつも一定した形のない幼児の御機嫌のおもむくところ数値がかわってしまうむずかしさ、すべての能力が綜合した形であらわれてくるので要素的にとり出すことのむずかしさ、などなどいろいろある。

ことに、話す・聞くことについての調査となれば更にむずかしくなる。時間とともに流れ去つてしまふものをなんとかつかまえなければならないから大へんである。

しかしこれは是非やらねばならぬしごとのひとつである。しかも「言語」の指導に役立つようになるとまとめていかねばならない。いままでにも語いの発達などの調査はあるが、現在の時点に立つていなことと指導に役立てるよう調べていないことが欠点である。

なんとか現場の人が手をあわせ、学者の方々の力をかりて、指導の観点にあわせて見本的な尺度をつくるまでにもつていただきたいものである。

意あまってことば足らず、思うように、歯切れよくまとまりませんでしたが、同好の志の御批判御指導をうけたいと思います。